東京農業大学稲花小学校
学校だより【2023年7月10日】第172号

Nodai Toka

ザリガニの観察

3 年生の稲花タイムでは，東京農業大学教職課程武田晃治教授に，カラフルザリガニの指導をしていただいています。初日にすぐに脱皮するザリガニもいて，子どもたちは給餌と水替えの当番を楽しみに一日２回，理科室に来ていました。２回目の授業では，まだザリガニの色は十分に変わっていませんでしたが，ザリガニマスターのバッジを全員が先生から頂くことができました。記念になる素敵なバッジです。ザリガニの色が十分に変わっていなかったのは，色素入りの餌ではなく，水草の方を主に食べていたからだと教えていただき，これも納得です。水草は週末だけ入れることに変更し，夏休みの少し前まで，給餌と水替えとを続けて観察していくことにしましょう。ザリガニの世話も，もう子どもたちだけでもできるくらいに手慣れてきています。

学校での困りごとは

農大稲花小では，基本的に電話連絡は緊急時のみに限っています。そのため，保護者の皆様に子どもたちのことで連絡する必要があるときは，メールを活用しています。１ 年生など低学年では，子どもたちが十分に保護者に伝えることができないので，落とし物やなくし物，服装や持ち物の不備，友人関係のトラブルなど，連絡内容は多岐にわたります。保護者様からのご連絡やご相談が一番多いのも，１年生，そして低学年です。しかし，学年が進むにつれ，子どもたちには自分で必要なことを保護者に伝えるよう指導を重ねています。自分でメモを取って忘れないように保護者に伝えることもできるようになります。また，困りごとがあれば保護者を介してではなく，まず，その日のうちに，あるいは，なるべく早い時期に自分で担任に伝えられるよう指導をしているところです。もちろん，子どもの発達や理解の度合い，そのほか必要に応じて保護者様からお知らせいただくことはとても大切だと考えていますので，ご遠慮はなさらないでください。同時に，子どもたちの自立を助けられるよう，学校と保護者様とで協力していけることを願っています。教員や保護者の力を借りながらも，自分の困りごとを適切に解決しようとする子どもたちの力を育ててまいりましょう。

スクールカウンセラーも活躍

本校のスクールカウンセラーは，保護者との面談，また児童からの希望があれば児童との面談で，それぞれの困りごとを心理の面から支援する役割をもっています。対面の面談によるカウンセリングだけでなく，教室を回って学級の様子や子どもの様子を見ることにより，本校の子どもたちについて理解を深めています。保護者や教員ではない，スクールカウンセラーという相談相手が農大稲花小にいると子どもたちが知ることも，大切だと考えています。

トマトの収穫

農大稲花小の畑では，１年生がトマト，２年生がナス，３年生がエダマメを栽培しています。また，テラスでも野菜やイネの栽培に取り組んでいます。いつもは不作のゴーヤも，今年は無事に育っているようです。６月の後半から，トマトやナスの収穫がはじまりました。大きく育ち過ぎたものもありますし，まだ小さいものが収穫されてしまうこともあります。畑に収穫に行った子どもたちは，意気揚々と収穫物を袋に入れて帰ってきます。実は畑から戻ってきてから，「一つも取れなかった」と教室で泣いてしまった １ 年生もいました。一つも取れなくても心配しないでください。１年生は収穫したトマトをまず集めて，それから仲良く分け合っていました。

なお今週，東京農業大学第一高等学校・中等部の１年生の皆さんが，田奈の田んぼの除草に取り組んだとお聞きしました。農大稲花小の１年生が田植えした田んぼの除草も，中学生のお兄さんやお姉さんにしてくださったことを，子どもたちに伝えることにしましょう。

七夕

音楽室の前を通りかかると，「ささの葉さらさら のきばにゆれる」と子どもたちの歌声が聞こえてきました。美しいメロディです。１年生は願い事も書きました。そして七夕の７月７日(金)は，給食も七夕メニューでした。星形の野菜が入った七夕ちらしずし，天の川を思わせるそうめん汁，良く見ると星形の入った七夕ゼリー，そして，鶏肉の西京焼きと牛乳です。子どもたちの願い事をじっくりと読むのが楽しみです。

東京農業大学稲花小学校
校 長　夏 秋　啓 子